

## 文化・芸術

### 「梢のある自画像」

1943年、油彩、カンバス  
72・8<sup>号</sup>×53・2<sup>号</sup>（東京芸術大学美術館蔵）

鬚光（1907〜46年）

1943年の鬚光は、2月に松本竣介や麻生三郎、井上長三郎らとともに、自由な制作と発表の場を自らの手で見いだそうと「新人画会」を結成し、8月には広島で丸木位里との二人展、さらに9月から12月にかけては中国東北部を旅行しています。この旅先から鬚光はいくつかの手紙を送っていますが、その中の一つ、小林源平宛ての書簡（本展出品）には、当地では、人物を描く自信がなかったこと、これからは人物を主題に素晴らしい人物を描き展覧会もしたい、とする意気込みもありました。この時代、鬚光が人物を描くことに自信を得始めていた一つの側面がうかがえます。

本作は、そうした時代のなかに描かれた鬚光最晩年の自画像3点のうちの一点。やや斜めに仰ぐ顔に丸眼鏡。しかしそこに目はありません。画面の半分を占める厚い胸板、鋭角にとらえた構図と明暗の表現、堅牢なマチエール、そしてその肩の向こうには力強くもしなやかな線描による梢の群。美しき孤高の画家の表象のようにも見えます。この作品の圧倒的な存在感は、今なお多くの謎を投げかけ、多くの人々を魅了し続けています。

（小此木）

※企画展「鬚光と同時代の仲間たち」  
「丸尾康弘展 今、こどもたち」は、  
13日まで。

### 名画の扉

大川美術館企画展から

